

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 118号

2014/11/10 発行
株式会社 立花商店
坂元 麻美

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：ロンドン是小動き、NYは3%下落＝エボラの影響懸念薄れ

① 最高3月 LDN 市場£1,902 /3月 NY 市場\$2,883 (11/3) 先週比 **LDN-£11/NY-\$87**
② 最低：3月 LDN 市場£1,870 /3月 NY 市場\$2,856 (11/7) 先週比 **LDN-£14/NY-\$14**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£32 (傾向↑) / NY 市場\$27 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN市場 244,822枚(10/31終了時)⇒241,454枚(11/6終了時) **-3,368枚**
NY市場 188,027枚(10/31終了時) ⇒186,012枚(11/6終了時) **-2,015枚**

【11月3日(月)】ニューヨーク、ロンドンとも続落

ニューヨーク市場のココア先物は続落し、5カ月半ぶり安値を付けた。世界最大産地のコートジボワールでの収穫量増加に加え、ドル高などが圧迫要因となった。12月きりは38ドル(1.3%)安の2861ドルで終了。3月きりは**2856ドル**で終了。一時、5月12日以来の安値となる2859ドルまで下落していた。ロンドン市場も続落し、3月きりは22ポンド(1.2%)安の**1870ポンド**で引けた。

【11月4日(火)】両市場とも反発

ニューヨーク市場のココア先物は反発。中心限月の3月きりは、21ドル(0.7%)高の2877ドルで引けた。前日付けた5カ月半ぶり安値の2853ドルまで下落したが、同水準を下抜けることはなかった。3月きりは、売られ過ぎの状況にあり、テクニカルな調整買いが入った。西アフリカにおけるエボラ出血熱の感染がカカオ豆生産国にも拡大するとの懸念が緩和し、ココア相場に対しては圧力となっていた。ロンドン市場の3月きりも反発し、9ポンド(0.5%)高の1879ポンドで引けた。

【11月5日(水)】両市場とも反落

ニューヨーク市場のココア先物は反落。3月きりは7ドル(0.2%)安の2870ドルで引けた。気象予報会社のMDAによると、カカオ豆主要産地である西アフリカでの降雨により、収穫に遅れが出る可能性はある

ものの、生育が促進されるという。ロンドン市場も反落。3月きりは1ポンド(0.05%)安の1878ポンドで終了した。

【11月6日(木)】両市場とも反発

ニューヨーク市場のココア先物は反発。3月きりは1ドル高の2871ドルで引けた。ロンドン市場も反発。3月きりは16ポンド高の1894ポンドで終了。

【11月7日(金)】ニューヨーク、ロンドンとも続伸

ニューヨーク市場は続伸し、3月きりは12ドル(0.5%)高の2883ドルで終了した。テクニカルな取引が中心だった。ロンドン市場も続伸。3月きりは8ポンド(0.4%)高の1902ポンドで引けた。

2、メインクropp収穫開始とともに、カカオ豆価格が下落(11/2)

世界のカカオ豆生産量の約60%を担うコートジとガーナでは、一年で2度ある収穫期のうちのメインクroppの収穫が始まり、カカオ豆が市場に出回り始めた。

ロンドンの Ecobank の市場調査の担当は「2014/15 期の収穫は、好天候に恵まれて良好である。カカオ豆の出荷状況は昨シーズンと同じようなペースだ。」と述べている。Ecobank はメインクroppが始まって以来10月26日までで、コートジの港に着荷したカカオ豆の数量を16万4000トンと推定している。これは昨シーズンの同時期よりも2000トン少ない。

先週金曜日、カカオ豆のニューヨーク先物価格の12月きりの価格は2899ドルで3月14日以来の安値となり、この1週間で5%も下落した。

西アフリカで蔓延しているエボラ出血熱の影響が、カカオ豆産地にまで及ぶのではという懸念が市場に広まり、9月の後半には3年半ぶりの高値である3371ドルを記録したが、その価格から比較し14%下落している。

シカゴの先物取引を行う担当は「今のところ、西アフリカのカカオ豆の主生産地にはエボラの影響が及んでいない。このことで、投資家はカカオ豆価格が上昇し続けるという見方を変更した。」と述べた。

また他の担当は「今のエボラの影響は、以前の内戦時を彷彿させる。2010年後半～2011年前半にかけて、コートジでは政治上のある党派がコートジからのカカオ豆の出荷を停止させていた。まだ出荷停止には陥っていないが、もしそうなったとき状況は深刻であり、すぐに悪影響をもたらすだろう。」と述べた。

カカオ豆先物価格は、北アメリカ圏での需要が依然強いにも関わらず、アジアや欧州での需要の冷え込みがみられ下落している。

チョコレート需要の指標となるアジアにおけるカカオ豆磨砕量は昨年(2014)の第3四半期と比較し、今年は5.9%下落した。また人口一人当たりのチョコレート消費量世界最大の欧州では1.1%の下落にとどまった。しかし一方で、北アメリカ圏の第3四半期の磨砕量は記録を更新し、市場の期待を高めた。

現在世界各国に展開するチョコレートメーカーは、直近の売り上げ上昇はアジアにおけるチョコレート消費量の伸びによって支えられており、アジア圏の需要の停滞は懸念材料となる。インドのチョコレートの売り上げは今年、14%伸びる見通しだ。また中国は今や世界で第8位のチョコレート消費国に君臨している。2010年までは第10位であったが、消費量が伸び続けている。

加えて、ドル高の為にカカオ豆価格が上昇している。近く、米国の政策金利が上昇し他国と比較し金利が高くなることに投資が反応しており、先週のドル相場は高騰した。また日銀が金融緩和を公表し1兆円の資金を市場に投入したことから、円安ドル高が進んだ。この影響で、カカオ相場自体が下落しているにも関わらず、カカオ豆の円建ての価格は上昇した。

3、アジア：ココアバターレシオは直近の16カ月で最低水準(11/7)

アジアのココアバターレシオは直近の16カ月でもっとも低く、ロンドン先物価格に対して2.1となった。但し実際オファーされる数字は2.2となっている。2週間前は2.2~2.25であった。

あるトレーダーは「カカオ製品の価格の面で、市場は非常に勢いが落ちている。ただ、パウダー価格は少し改善し先週の1600ドルから1750~1850ドルとなった。もちろん価格の上昇によって、パウダーを購入する顧客からの反発はあるが……」とロイターに告げた。

磨砕業者はパウダーとバターのどちらかの在庫が過剰になることを防ぐために、パウダーとバターをまとめて販売する“コンボ取引”を行っている。コンボ取引の際のレシオはロンドン先物価格に対して2.6であり、先週の2.9からは下落した。

また別のトレーダーは「我々は、カカオの磨砕業者がバターやパウダー価格の上昇をまっているのではとみている。というのも、このコンボレシオではほとんど儲けが出ないから。もし磨砕業者が完全に生産をストップさせたら、ようやく価格がもとの水準まで上昇してくる。一部の工場は機械の稼働を止めなくてはならないだろう。市場が在庫分を十分に吸収してくれるまでは休止しなくてはならない。そうすれば需要が高まり、価格がもとに戻ってくる。」と述べた。

インドネシアの磨砕量は前年対比で85%も上昇し2014年の終わりまでに60万トンとなる見込みである。これは国内にカーギル、バリーカレボー、ガンチョンなどの企業が工場を設立し、生産が盛んになっているからである。

インドネシアのカカオの主生産地であるスラウェシ島やランブン州からのカカオ豆の輸出量はそれぞれ、36%、88%下落し、その分がこうした国内の磨砕業者へと渡っている。

インドネシアの新たな大統領であるJoko Widodo氏は、インドネシア全体でのカカオ豆生産量を世界最大にしようと目標を打ち立てた。「我々は近い未来、コートジボワールやガーナの生産量を上回るだろう。そしてそのためにカカオ農家はより懸命に仕事に従事しなくてはならない。」と述べた。

4、コートジ：カカオ豆産地、年内豊作の見通し＝日照りと降雨に恵まれる(11/4)

コートジボワールのカカオ農家が3日明らかにしたところによると、同国カカオ豆産地では先週、十分な日照と散発的な雨に恵まれ、年内は豊作が見込まれている。

カカオ豆産地の中心地、西部ソブレの農家は「天候は良好だ。日照が多く、小さな実がたくさんつき始めている」と説明。「年内は豊作になるだろう。ただ、2月にかけて良質な豆を収穫するには今月末までは毎週、降雨が必要だ」と述べた。

同国西部ガニョア、南部アグボビル、ディボ、ディアサレでも、良好な生育状況が報告されている。ただ、中西部ダロアでは大雨が続き、ブラックポット病が拡大している。

5、コートジ：先週1週間で5万トンを港へ出荷(11/3)

コートジの政府関係者によると、先週の10月27日～31日までに、コートジ農家は約5万トンのカカオ豆を港へ出荷したという。メインクロップが始まった10月1日からこれまでの出荷量は21万に達した。

昨年同時期もほぼ同水準であった。

6、世界最大のチョコレート消費国の米国、原料高による価格UPでも売上落ちず(11/2)

米国の Jacques Torres 氏は、カカオ豆価格が約3年ぶりの高値を更新する中であっても、米国人がチョコレートを生活から追いやることはないと言っている。

Torres 氏は自らを“Mr. Chocolate”と呼び、昨年はブルックリンにチョコレート工場を作る為に300万ドルを投じ、また彼の起源となったニューヨークの店も4店舗から8店舗となった。

中でもハドソンストリートにある店では12粒入ったチョコレートが19.20ドルで売られている。彼は「人々はチョコレートを心から愛している。だから商売もうまくいっている。なぜなら買いたい！と言ってくれるお客さんがいるから。ニューヨークも米国も経済は良好だ。」と述べている。

どんな国でも米国よりもチョコレートを消費する国はない。米国では今年、チョコレートの売り上げが177.5億ドルを記録した。需要が伸びるたびに、ハーシーズを含む製造メーカーは仕入コスト増をカバーするために、製品の価格を上げている。エボラ出血熱の影響で、西アフリカの主要産地からの原料出港が阻害されるのではとの懸念から、9月のカカオ豆相場は2.2%上昇した。

ある関係者は「多くの人々にとって、チョコレートは手頃な贅沢品だ。だから原料高騰でチョコレート価格が上がったとしても、チョコレートへの需要は依然として強い。米国ではプレミアムな高級チョコレートから、一口大のチョコレートまで非常に売り上げが伸びている。」と述べた。

今年カカオ豆先物価格は15%上昇し、チョコレートのメイン原料であるココアバターも5%押し上げた。ハーシーズやマーズなどのチョコレートメーカーは原料高に対応し、7月には製品価格を値上げした。

チョコレートの価格が値上がりしたとしても、52週間でチョコレートの売り上げ数量は1.9%上昇し、100万

トンに達した。チョコレートの売り上げ通常、ハロウィーンからイースターにかけてピークを迎える。北米のカカオ豆磨砕量は第3四半期で4.6%上昇し13万8027トンとなり、ワシントンにある国立チョコレート協会が2009年に始まって以来、最高値を記録した。

多くのチョコレートファンにとって、値上がりで消費を落とすというような事はない。NYのメトロポリタン・オペラのフルート奏者のTrudy Kane氏は「チョコレートは人々を幸せにする。」と語る。彼女はマンハッタンのプラザホテルでシャンパン入りトリュフを頬張りながら「全てがうまくいっている時、人は素晴らしいと感じる。チョコレートにも同じ力がある。おいしいチョコレートを食べると、人は同じように素晴らしいと感じるだろう。」と話した。

ある主婦はハロウィーンの際に配るチョコレートを昨年よりも多く50袋を購入した。ハーシーズやマーズ、スニッカーズは7月には平均で7%も値上がりしている。しかし彼女は「私がチョコレートをドラッグストアで購入するときチョコレートの価格なんて見ない。価格は大した問題でなない。」と語る。

エボラの影響が、世界最大の cacao 産地であるコートジvoireに近いギニアやリベリアに拡大している最中でも、チョコレートの消費量は伸び続けている。キットカットを製造するネスレは「この状況は非常に危険を含んでいる。」と述べている。ネスレはコートジvoire、ガーナ、ギニア、ナイジェリア、カメルーン、セネガルを含むアフリカ諸国から原料を調達している。「我々の原料はこうした国々から調達している。エボラの影響は深刻だが、我々は産地や、そこで働く現場の方々をサポートしていく。」と述べている。

国際 cacao 機構(ICCO)はエボラの影響が、 cacao 原料の供給にそこまで深刻な被害が出ると考えておらず、 cacao 豆価格の高騰は長くは続かないとしている。仮にギニアやリベリア、シエラレオネで収穫や出荷が縮小したとしても、これらの国の cacao 豆生産量を合わせても、世界の全体の生産量の0.7%にしかない。一方でコートジvoireは世界の cacao 豆の61%を占めている。また、ガーナ政府は、農家からの cacao 豆買い付け価格を51%上げて、トン当たり1591ドルとした。これにより農家は肥料や土壌の改善のための投資を行えるようになり、生産量が伸びる見込みである。

チョコレートの消費量はどこの国でも伸びている訳ではない。欧州ではこの2年でわずかに0.8%しか上昇しておらず、第3四半期の cacao 豆の磨砕高も1.1%下落した。

しかし cacao 原料やチョコレート製品が値上がりしたからといって必ずしも消費が落ち込むというものではない。実際2011年に、 cacao 豆価格が過去32年間で最高値を記録したが、その時の cacao 豆への需要は5.4%上昇した。米国ではハロウィーン用のチョコレートバーに対する消費が伸び、25億ドルを記録した。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp